を持つ製品を強みとしてい

第4481号

報

# 小間番号: 42-32 塗装業界の「カッコいい ロボットと自動化で次世代の現場づく 聞かせ下さい

本社とし、北関東・甲信越 ます。 貴社のご紹介をお願い リアを中心に展開する 当社は長野県伊那市を お客さまの要望に応じ、

環境の最高では、金を塗料・塗装分野では、金を おもな事業領域・強みをお 低コスト化を支援していま 短縮などを通じ、省人化・ よる歩留まり改善、丁 塗料・塗装分野における い!」をテーマに、クラフ「塗装業界はカッコい と展示の見どころは。一今回の出展コンセプト る最適システムを提供 経験やアイデアを生かした 塗装設備の意匠設計も し関わるのが<br />
当社の強み

を兼ね備えており、現場に

発想をもたられ

O'CO'C す。 自動塗装機「Neo さらに、 と連携した共 カジュアルな ズや、

的な操作性と高い再現性 は、塗装工程の自動化や省 こいる塗装専用ロボットを し、世界的に高い評価を得 トマンシップの国・イタリ る内容となっています。 可能性を感じていただけ 掛け合わせ、幅広い用途の 塗料本来の魅力を素材と 特に注目してほしいポ 来場者に体 す。Lesta社塗装ロボッ 方にも注目してほし 改善を検討する製造業の

てお聞かせください

ナイング・

術領域や課題意識につい

いや背景、重視している技ー今回の出展に込めた狙

ます。 このロボッ

る感覚に近い操作性で 間の動きに近いレ まさに人が教 ばと思っています。 と胸を張れるようにな 人化・環境対応・高生産性 に関わる皆さんが、

ね 場を実現するのが目標で スの導入で次世 た塗装現場のイメ イメージアップ戦略です 従来 "3K" Ą やロボティ

速していきます。 を「NCCロボット そうですね。 ボンラ 2025年 る」を目指します。

はじめ、スタッフがブ 定です。多くの方々と直で来場者をお迎えする予

ありがとうございまし

術があればご紹介くださ 環境対応、省エネ・省資源

展示会期間中は社長を



①熟練の動きを直感的に学習するLESTA社製塗装ロボット『誰でも扱いやすい自動塗装機「Neo Easy Coater」シリーズ

## 体感型展示で 効果を体感 品品 開発

高耐久・環境重視を追求

した唯一無二のこの製品

グシステムです。

高品質•

ます

ず、屋根や室外機などあ

ばご紹介ください

化への取組み・技術があれ

案しておりましたが、無機 床以外のジャンルに新 ティングの技術力を ガラス用遮熱コー は 触れて・納得できる」 体験 今回の出展コンセプト ガラス面から入る直射日 光の影響から建物内が熱 いると思います。 こうした酷暑対策の一助 冷房効率を弱めて

が分かるよう工夫しまし

売りになります。

長寿命化が一番の

機系」を組み合わせた商

当社は「省エネ」と「無

品作りをしております

当社は、「無機系コー

真社のご紹介をお願い

小間番号:39-40

上までを一貫して行って

商材を開発している所で

ティングの開発などを手

具体的にどのような展 に期待出来る商品ではあ が、この商品を実体

> なればという形でご紹介 困り事に対してのヒントに

の現状の課題につ

いただきます

しており、お客様毎での

製造業と施主様がメイ

様の課題に応えるため、

お客様ごと

研究開発を行ってお

術を応用したロボッ

事業

であるNCと、そのt んできました。

基本技術

およびロボットマシン事業

ット層があれば教えてくだ

の中にない新し 地球温暖化が進む中、

狭い道に集中して取

来場を期待するター

えできる商品開発力が当 さまざまなニーズにお応 示で来場者をお迎えしま

昨今の「酷暑」に対し、 験できるようにしておりま

冒頭にも紹介させて ①展示プースレイアウト①酷暑対策にガラス 用遮熱コーティングのさまざまな技術をブースで紹介します

の違いを体感して欲しいで

ィングの有無での暑さ

開発を含めたヒントを得

いいたします。

豊富

活かしていくか、という観

当社は、お客様の要望

に向けてメッセージをお願

最後に、業界や来場者

を展開しています。

から新しい

しているので、ブ

ので、ブースではしい商品を生み出

お客様のお悩みをお聞き

することが出来れば、

CRX-10iA/L Paint

11110

しい商品開発に努めた

喜んでいただける商

**遮熱コーティングの他の** 

こだわったコー 当社の主力は無機系に ので、アピ いるというともあり 特許を取得 てお聞かせください。 術領域や課題意識につい

狙 を解決する商品を多くの ネ対策が難し 年々夏場の気温が右肩

機系」にこだわったコー

導入の敷居が低い恊働ロボットCRX。 いかに塗装工程に活かしていくかがテーマ

てなど、お気軽にお声 お立ち寄り ただき、

見

小間番号:44-50

協働ロボットを塗装で

一程に

自動化検討のヒントを提供

さから、ランニングコスト 環境対応、省エネ・省資源 の部分におきま ィングであり、耐久性の高 カーボンニュー い期待が持てると思い

年にNCの開発をフ Lさせて以来約70年、 次い道に集中して取り組して工場の自動化という ファナックは、 貴社のご紹介をお願い ター 9 5 5 貫 装を始め、自動車部品・一界中で、自動車の車体塗 なラインアップを揃え、世 般産業を含めた様々な塗 一程でお使いいただいて

と展示の見どころは。 一今回の出展コンセプト 協働ロボットCRXの塗装 RXをいかに塗装工程に 工程への適用を中心にご紹 特に簡単に導入できる 協働ロボットC ツ ことがない、これからロボ ットに慣れていないお客様を心がけました。特にロボ 動化のヒントとなる展示 ロボットをお使いになった したいというお客様に、自 トによる自動化を検討 業種を問わず、これまで ーを用意しています。 の動きをそのまま真似るモ

ションキャプチャー

ーによ

体験型の展示は来場者

点でご覧いただければと思 ありますか。 体験してほしい仕掛けは しいポイントや、来場者に ブースで特に注目してほ

にとっては、ロボットへの かして教示するダイレクト をとって教えるかのよう 決すべく、大人が子供の手 なります。その課題を解 教示作業が大きな障害と 人が直接ロボットを動 - チや、作業者の塗装 いや背景をお聞かせくだ いただきたいと思います。 通りに実現できるか体験 いかに教示作業を思った 是非ご来場いただいて、 今回の出展に込めた狙

ています。一方で、これま動化への要求は日々高まっ 分野でも例外ではなく 深刻な人手不足は、塗装 製造業全体に見られる や環境対応、省ーーカーボンニュー の裾野を広げたいと考え ています 動化をアピールすること トラル

みはいかがですか。 省エネ・省 あります

が低く、 ボットであり、 使えるこれまでにないロ てで、慣れていなくても ファナックの協働ロボ トCRXは導入の敷居 ロボットが初め 従来お客

幸いです。 場いただき、 可能性があります。是非 様が自動化をためらわれ ノックのブ お客様の ースに来

実績を重ねており、お客い設備導入など、多くの縮、エネルギー効率の高 きらめない私たちを発揮 に向けてメッセージをお願 と言ってもらえるほど、 CCでだめなら仕方ない」 ぜひお聞かせ下さい。 る現場を応援します。 S!」を合言葉に、挑戦 「塗装業界はカッコ をお ください。 塗装分野におけるおもな 貴社の概要と、 **運膜耐食評価の事業化検証** 

もなければ「私たちで創

①塗膜耐食性評価に用いる計測器①試験片を室内で測定している様子

## 当社では「NCCコス 小間番号:46-33

ッフが最適なデモンス

大変興味深い点で

一を体現

減の両立を図っていま る歩留まり向上や工 もに環境対応とコスト低 削減隊」活動を展開 塗装環境の改善によ

開発研究者も参加し事例説明

は。一今回の出展コンセプト

者やエンジニア、社会イ

スを活用して塗装の技

塗料・塗装業界の研究

ンフラや設備インフラの

ださい。

があればご紹介ください。

これまでに、当サ

ット層があれば教えてく

来場を期待するターゲ

資源化への取組み・技術や環境対応、省エネ・省―カーボンニュートラル

ていただけると考えてい

を目指します

の魅力を発信すること/

来場いただき、

まずは当

でなく、幅広い方々にご 維持管理に関わる方だけ

ることで環境負荷低減、

-ボンニュートラル、 キュラーエコノミー

術・材料開発を効率化す

社の技術やサービスを知

を推進する技術開発の

いただきたいです

確認しています。また、期化に貢献できることは

「我々の技術・サービス

さまの現場課題を共 最後に、業界や来場者

が、塗料・塗装分野でも<br/>
造・販売が主な事業です ください。事業領域・強みを教えて 車の製 省資

膜耐食性迅速評価法」 っています。中でも「塗源化に関する取組みを行 以来、自社のボディーや 7年の実用化

ました。現在はこの技術理で実績を積み重ねてき 装技術開発、量産品質管 シャシーなどの塗料・塗

でき、業界の持続的発展装部品の防錆性能を評価 に貢献することを目指

業化に向け、事業性検証食性評価サービス」の事 食性評価サービス」の事 間で定量的にその場で塗 に着手しています。 短期 何でしょう。 ―防錆に着目した理由は

ことと、グローバル的に評価法が役立つと考えた が求められる状況下、実インフラの老朽化対策 も広く展開できることが 績のある塗膜耐食性迅速 あります

企業様との 当社は、「塗膜耐食性評 検証にご協力いただける -ビス」の認知を広

技術領域や課題意識につ

際のオペレーションを踏用されている塗料で、実

塗装された鋼構造物に使

いてお聞かせください

いや背景、重視している――今回の出展に込めた狙

を目指しています。 またご興味がある方には の魅力を感じてもらい かせください めるのと、多くの人にそ すべざさい。展示の見どころをお聞 本出展では、計測器の

性検証段階にあり、すで当サービスは現在事業

めております。これらのまえた最適化の検討を進

の特徴や利点をご理解いたしますので、サービス 者に体験してほしい仕掛 しいポイントや、来場 ブースで特に注目して 体制は。 貢献することです。 き ながら困りごとの解決に 検証に協力いただき

ただけると思います。

的な事例を交えて説明 た研究者も参加して具体 以外にも本技術を開発し 展示に加え、事業開発者

にご興味を持っていただ

は、

さまざまなお客さま 今回の出展の狙

自技術や技能を活用し、 発・製造で培ってきた独 当社は、自動車の開

評価法」をベースにした 自動車「塗膜耐食性迅速 提供できるかを検証する

願いいたします。 に向けてメッセージをお

に対して、狙いの価値が

ことに重きを置いてい

車以外の業界のお客さま

決へ貢献していきます

最後に、業界や来場者

活動を通じ、社会課題解

に実用化されている自動

実施しております。将来価する受託型サービスを 業化を目指して、 れたサンプルを診断・評 現在、2026年の事 -サービス提供の具体的 提供さ 決による貢献を目指して どが抱える社会課題の ス」で、企業や自治体な 「塗膜耐食性評価サ

けはありますか。

事業や技

的にはクラウド活用のS aaS型サービスの提供 ただければ幸いです。ビスにご理解を深めてい じて、当社の技術・サーいます。今回の展示を通 ありがとうございまし

え、計測器や計測前後の 術紹介のポスターに加

試験片も展示し、これ

よりイメージを膨らませ

初の自動化は、設備構想 や設備コストに対する障 への漠然とした心理的な 協働ロボットによる自動 安全柵が不要で作 ロボットを使うこと 量や動作範囲の産業用ロ る協働ロボツ 製品面ではいかがですか。と評価されていますね。 くは、同クラスの可搬重 出展の中心とな

障壁が伴います。

段階的な自動化が可能で 更に一度に全てではなく、 業者とスペースを共有しな 周辺設備を簡素化でき、 がらでも実現できるため、 協働ロボットによる自 防爆協働ロボットがワ ボットと比較して、質量、 れています。 度と大幅に省エネ設計さ 消費電力ともに1/3程 さらに、今回の展示で、

排気エリアを抑え、設備の飛散範囲とそれに伴う が、本システムは、塗料するシステムがあります クを持ち固定ガンで塗装

最後に、業界や来場者

コストを低減する効果が

願いいたします。 に向けてメッセージをお

- ありがとうございまし

